

主体的に学ぶ(知)

			1学期末	2学期末
1	児童	今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	27/32	28/31
	保護者	お子さんは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	26/28	30/33
	教職員	子供たちは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	7/7	7/7
2	児童	自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	27/32	27/31
	保護者	お子さんは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	24/28	27/33
	教職員	子供たちは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	7/7	7/7
3	児童	学習で「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したり、ノートに書いたりしている。	29/32	26/31
	保護者	お子さんは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、家庭で話している。	25/28	28/33
	教職員	子供たちは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したりノートに書いたりしている。	7/7	7/7
4	児童	タブレットPCを活用して学習する際に、自分の考えを生かしたり深めたりしている。	28/32	30/31
	保護者	お子さんは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしていることを家庭で話している。	23/28	27/33
	教職員	子供たちは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしている。	7/7	7/7
	教職員	自分は、子供たちがタブレットパソコンを活用できるような授業を意図的に行っている。	6/7	5/7
5	児童	タブレットPCを活用することは、将来に役立つと思う。	32/32	31/31
	保護者	タブレットパソコンを活用することは、お子さんの将来に役立つと思いますか。	28/28	33/33
6	児童	学校の先生は、自分で考えたり話し合ったりできるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活に生かせるような課題を取り上げたりするなど、授業の内容を考えてくれている。	30/32	28/31
	保護者	教職員は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	27/28	30/33
	教職員	自分は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	6/6	6/6
7	児童	家の人は、自分(子供)の学習に関心を持ち、進んで学習に取り組むことができるように、助言したり、宿題に取り組む様子や内容等を見たりしてくれている。	32/32	27/31
	保護者	家庭では、お子さんの学習に関心を持ち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けていたりしている。	25/28	30/33
	教職員	自分は、子供たちが学習に関心を持ち、自ら家庭学習に取り組むことができるように、家庭学習のしかたや内容について、助言したり、良い取り組みを紹介したりしている。	6/6	6/6
	教職員	保護者は、子供たちが学習に関心を持ち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けていたりしている。	7/7	7/7
考察 (知)		<p>○「項目1」「項目2」ともに1学期の結果と比較すると、肯定的な評価が増えている。子供たちが自分で考えようと努力している様子がうかがえる。また、自分の考えとの共通点や相違点を見出したり、関連付けたりしながら話し合いを深めようと努力していると思われる。</p> <p>○「項目3」の1学期よりも肯定的な評価が減っている。タブレットを活用しているために意見を発表したりノートに書いたりする機会が減っているため、質問の内容を検討する必要がある。また、学習の最後の「振り返り」は定着しているが同じような内容になっているので、振り返りを自分事として「次につながる自分の学びの振り返り」となるように指導していきたい。</p> <p>○「項目4, 5」では、授業でのタブレットの活用が増え、児童・保護者ともに一層の必要性を感じているので、さらなる実践を進めていきたい。</p> <p>○「項目6」の項目は、1学期に比べ肯定的評価が減っている。タブレットの活用によって、若干課題の設定が児童の実態に合っていないことが考えられる。児童の実態に合わせた課題に興味をもたせ、自分事として学びを深めさせることができるようさらなる改善を図りたい。</p> <p>○家庭学習に関する「項目7」では、多くの児童が肯定的に評価している。保護者も子供の学習に関心を持ち、自ら学ぶ家庭学習となるように子供の支援をしてくれている。学校では、学習を継続的なものにするために、授業で学んだ後、浮かんだ疑問や追求したいことなどは家庭学習の自己課題として取り組むことで、主体的な家庭学習となるようにしていきたいと考えている。授業の学びを自分事として受け止め、自分は何をすべきか考えられるように支援していきたい。</p>		

自分らしく輝く(徳)

		1学期末	2学期末	
8	児童	自分や友達のよいところや頑張っていることを見付け、きらっとカードに書いたり発表したりしている。	28/32	25/31
	保護者	お子さんは、自分や友達のよいところや頑張っていることを、家庭で話している。	24/28	29/33
	教職員	子供たちは、自分や友達のよいところ・頑張っていることを見付け、書いたり発表したりしている。	7/7	7/7
9	児童	学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わっている。	28/32	31/31
	保護者	お子さんは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	26/28	27/33
	教職員	子供たちは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	7/7	7/7
10	児童	自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、明日葉カードの目標にして粘り強く取り組んだりしている。	28/32	26/31
	保護者	お子さんは、自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、目標に向かって粘り強く取り組んだりしている。	25/28	26/33
	教職員	自分は、子供たちの生活をよりよくしようと、生活を見直させたり、目標に向かって粘り強く取り組むことができるように、励まし支援したりしている。	7/7	7/7
11	児童	学校の先生は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	30/32	31/31
	保護者	教職員は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	25/28	28/28
	教職員	自分は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	7/7	7/7
12	児童	家の人は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	31/32	30/31
	保護者	家庭では、お子さんができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	27/28	32/33
	教職員	家庭では、子供たちのできること・得意なことが増えるように、励ましたり支援したりしている。また、子供たちのよいところを認めている。	7/7	7/7
考察 (徳)		<p>○「項目8」は、1学期同様、肯定的な評価は高いが、否定的な評価の児童も少し増えている。2学期には、「きらっとカード」を使って、友達の行事での頑張りをみんなで見付けたり、自分の頑張りを友達に認めてもらった。しかし、自分から取り組んでいる児童の数は少ないので、今後は日常的に「きらっとカード」を活用する意識を高めさせたい。</p> <p>○「項目9」の肯定的な評価は、児童は1学期よりも増加しているが、保護者は減少している。2学期は、昼休みにボールや固定遊具を使った外遊びを楽しんだり、図書室で本を読んだりなど、思い思いに過ごす姿が多く見られた。しかし、そのことが保護者に伝わっていないようである。ブログや頼りを活用して昼休みの様子を伝えたり、縦割り遊びや他学年との交流を計画・実践することで、多くの友達と関わるという小規模校のよさを発揮できるようにしていきたい。</p> <p>○「項目10」は、1学期と比べ保護者の評価が少し改善された。しかし、まだ80%に届いてはいない。学校では、明日葉カードに掲げた目標を達成しようと子供たちは頑張っているけれど、家庭での生活の様子はあまり変わっていないのだろうと考えられる。高学年になるにつれ、家庭で話す時間も減ると予想されるので、学校からの発信力を高めることで、子供たちのよい表われや頑張りの様子を学校と家庭で共有できるようにしたい。</p> <p>○1学期に比べ「項目11」「項目12」の肯定的な評価が増加し、児童の自己効力感の高まりを感じる。家庭でも支援してくれていることが分かる。今後も、学校でのよい表われや頑張りの様子を積極的に家庭に伝え連携することで、子供たちが自分に自信をもち「自分らしく輝く子」を目指していきたい。</p>		

健やかな心・体をつくる(体)			1学期末	2学期末	
13	児童	毎月の挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	27/32	27/31	
	保護者	お子さんは、自分から進んで挨拶している。	24/28	29/33	
	教職員	子供たちは、毎月の挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	6/7	7/7	
14	児童	学校では、笑顔で元気に生活している。	29/32	31/31	
	保護者	お子さんは、笑顔で元気に学校生活を送っている。	25/28	27/33	
	教職員	子供たちは、笑顔で、元気に生活している。	7/7	7/7	
15	児童	朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	28/32	27/31	
	保護者	お子さんは、体を動かすことを楽しみ、目標をもって運動に取り組んでいる。	25/28	29/33	
	教職員	子供たちは、朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	7/7	7/7	
16	児童	毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	27/32	25/31	
	保護者	家庭では、早ね・早起きを呼び掛けたり、朝食を食べさせたりしている。また、メディアについての約束事を決め、守らせている。	25/28	28/33	
	教職員	子供たちは、毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	7/7	7/7	
考察 (体)	<p>○「項目13」の肯定的評価が、1学期と同様であった。毎朝正門や昇降口に立って教師が挨拶したり、職員室や各教室への挨拶などを習慣とする子が増えたりして、朝の校内には挨拶の音が響き渡っていた。しかし、まだ一定数の消極的な児童がいるので、全校児童の気持ちのよい挨拶の音が響く学校を目指していきたい。</p> <p>○「項目14」は児童の肯定的な評価が100%に対し、保護者は10%近く減少した。この差をしっかりと捉え、保護者が感じている不安を取り除くために、家庭との連携を図る必要がある。そして、日頃の教育活動における児童理解に努め、全児童が楽しいと思える学校にしていきたい。</p> <p>○「項目15」の肯定的な評価は1学期と同様である。昼休みに運動場で遊ぶ子供が多く見られ、チャレンジ運動で行っている種目にも、多くの子供たちが楽しく取り組んでいた。しかし、運動に苦手意識がある児童もいるので、誰でも楽しく運動に関わることができるように体育の授業を工夫したり、チャレンジ運動で運動への関心を高めたりしていきたい。</p> <p>○「項目16」の肯定的な評価が若干減少している。これは、一部ではあるが遅くまでYouTubeなどの動画を視聴したりゲームをしたりといった生活の乱れが高学年だけでなく低学年にも見られ、朝気持ちよく起きられない・授業に集中できないことに関係していると考えられる。そのため、養護教諭を中心に行っている「すこやかチェック」で改善を図っているところである。「早ね」「朝ごはん」「メディア」とテーマを月ごとに絞り1週間実施する中で、すこやかチェックに「げんきポイント」を設定し、達成者を紹介したり称揚したりしたこと、目標達成目指して努力する家庭が増えている。今後も基本的な生活習慣の確立のためにも、メディアとのよりよい付き合い方を子供自身が考える機会を設けていきたい。</p>				

学校運営・学校体制・PTA等

1学期末

2学期末

17	保護者	学校は、お子さんのことについて相談がしやすい。	26/28	31/33
	教職員	自分は、子供たちにとってよき相談相手となったり、保護者の要望に適切に対応したりしている。	7/7	7/7
18	保護者	家庭では、便りやホームページ、その他の方法で、学校の情報を得ることができている。	24/28	32/33
	教職員	自分は、学校の情報や子供の様子を、適切な方法で保護者や地域に発信している。	7/7	7/7
19	保護者	学校は、子供たちの安全確保のための取組を十分行っている。	27/28	33/33
	教職員	自分は、子供の安全確保のための取組が十分にできている。	7/7	7/7
20	児童	午前中4時間・午後2時間授業をするより、午前中5時間・午後1時間授業の方がよい。 (低学年⇒午前中4時間・午後1時間授業より、午前中5時間・午後は授業なしの方がよい。)	30/32	25/27
	保護者	学校は、午前中5時間授業のよさを生かして、教育活動を行っている。	25/28	30/33
	教職員	午前中5時間授業は、教育的効果がある。	7/7	7/7

考察

○「項目17」は、1学期同様に多くの保護者に肯定的な評価を得た。教育活動について、保護者の皆様には御理解・御協力をいただき、大変感謝している。今後も、学校と家庭が思いを共有することで、社会に開かれた教育課程の実現を図っていきたい。

○「項目18」は、1学期より大幅に肯定的な評価が増加している。今後も情報発信の方法を模索するとともに、個別に保護者に児童の様子を伝えることも心掛けていきたい。

○「項目19」の項目においては、肯定的な評価が100%となった。子供の安全が第一である学校として、何よりうれしい評価である。今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策や校内の安全管理、登下校の見守り等、十分気を配っていきたい。

○午前中5時間授業の体制となって4年目を迎えた。午前中5時間授業のよさとして、「午前中に集中して学習ができる」「6時間授業の日も、午後1時間の授業なので気持ちが楽」「下校時刻が他校より早いので、放課後の自分の時間が多い」「昼休みの時間が長いから、友達と遊べて楽しい」などを挙げ、90%近く児童と保護者が、午前中5時間授業がよいと評価している。このことから、児童や保護者に午前中5時間授業の生活が定着してきたことが分かる。しかし、1年生のほとんどは「分からない」と評価しているため、1年生にも良さを伝えていきたい。今後も小規模校のよさを生かした教育活動を模索していきたい。